



戦略02関連
人・モノ・情報の自由自在な
交流を実現

FUTURE IMAGE

地域の特性に応じて多様な交通モードと最先端技術を組み合わせ、世界一使いやすい総合的な道路・交通ネットワークを構築し、人・モノ・情報の自由自在な移動と活発な交流を実現します。



(まちな顔としてにぎわう地下鉄駅周辺)

開発に併せ、駅とまちなつながりが大きく改善された地下鉄駅周辺では、子育て、防災、にぎわいなど多様な機能が導入され、活気にあふれています。

多くの旅行者やビジネスパーソンなどが集まり、自動運転技術を活用したスマートモビリティ*や、シェアサイクルなど多様な交通モードを利用し、自由自在で快適な移動を楽しんでいます。



**(道路空間が再編されゆとりやにぎわいが生み出された区部
周辺部や多摩地域)**

道路ネットワークの概成により自動車交通が円滑化した幹線道路では、緑の歩行者空間や新たな交通モードの導入など、多様な道路の使い方が実現しています。

高齢者や子育て世代が、安全で快適な移動により、時間にゆとりのある暮らしを送り、緑豊かな風景の中で行われる水辺のにぎわいやイベントを楽しんでいます。

現状と将来の見込み等

- 渋滞解消や災害時のリダンダンシー*確保などに資する道路ネットワーク構築のため、高速道路や骨格幹線道路、補助幹線道路の整備などの取組を進めています。(図2-1)
- 東京2020大会開催に伴う利用者の増加やその後の航空需要も見据え、首都圏の空港機能強化の取組を進めています。
- 東京では、世界トップレベルの高密度な鉄道ネットワークの充実や、鉄道駅周辺のバリアフリーに関する取組を関係機関の連携により着実に進めています。(図2-2, 3)
- 今後、少子高齢・人口減少社会が到来するなか、経済活力の向上と個々の価値観に合わせたライフスタイルの実現に向け、自由自在な移動と交流を確保する交通環境が必要となります。

図2-1 広域的なインフラネットワーク

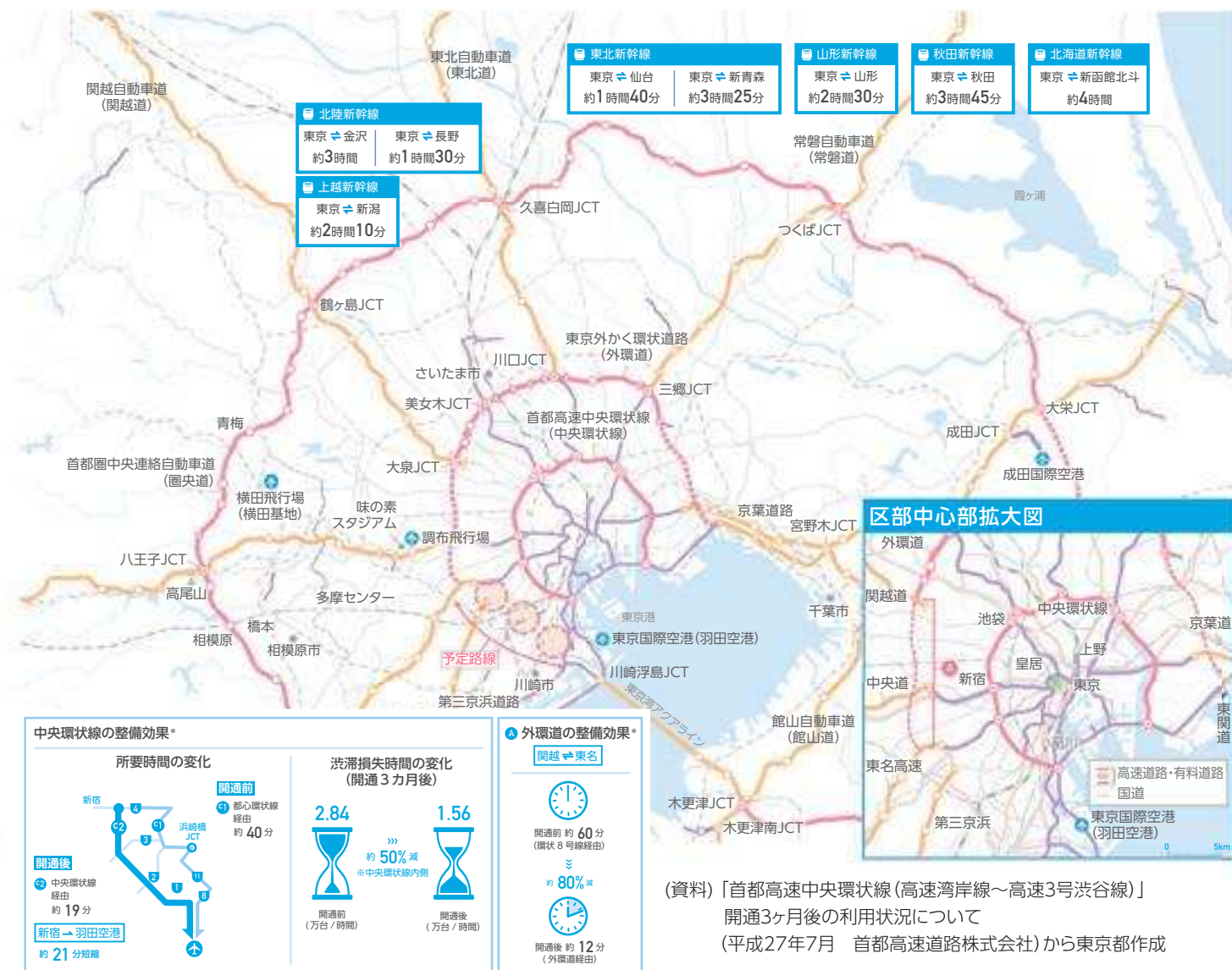
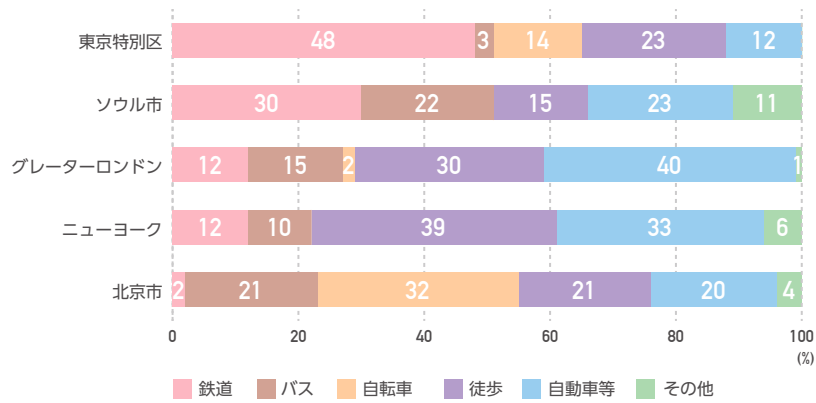


図2-2 交通手段分担率



(資料)「平成24年度 首都圏整備に関する年次報告(首都圏白書)」(平成25年6月 国土交通省)から東京都作成

図2-3 都内鉄道駅(JR・私鉄・メトロ地下鉄)のバリアフリー進捗状況

「エレベーター等による段差解消」の整備状況



「視覚障害者誘導用ブロック」の整備状況



「だれでもトイレ」の整備状況 ※路面電車の駅を除く



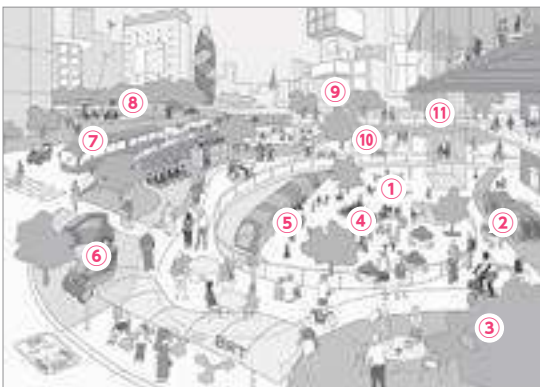
「ホームドア・可動式ホーム柵」の整備状況



(資料)「平成27年度末 都におけるバリアフリー化等の進捗状況」から作成

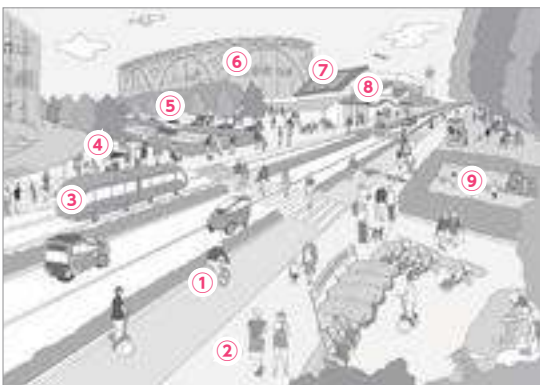
都市の将来イメージの解説

キープラン



解説

- ① ストリートファニチャーが置かれ魅力あるサンクンガーデン※
- ② 自転車と一緒に乗れるBRT
- ③ 公民の緑が一体となった空間
- ④ 駅近くに整備された自転車シェアリング※のサイクルポート
- ⑤ 改札のない地下鉄駅
- ⑥ シェアできる小型モビリティ
- ⑦ フィーダー交通として導入された燃料電池バス
- ⑧ 車いすスポーツが行える競技場
- ⑨ 子育て支援、防災など多様なサービス機能を持つ大型施設
- ⑩ 家族でくつろげる緑あふれる空間
- ⑪ 地上とビル、ホームを直結する大型エレベーター



- ① 自転車や小型モビリティを使い誰もが移動しやすい交通環境
- ② 無電柱化が進み安全で歩きやすい幹線道路
- ③ 自動運転技術を取り入れた燃料電池バス
- ④ 観光客を楽しませる路上パフォーマンス
- ⑤ 有機的につながった水辺と街路樹の緑
- ⑥ 誰もが気軽に楽しめる総合スポーツ施設
- ⑦ 太陽光発電を導入した建物
- ⑧ 空き家をリノベーションしたカフェ
- ⑨ 地域の原風景を再現した水辺空間の創出